資料1　P9 参考資料

使用済み漁具のリサイクル化に係る取り組み

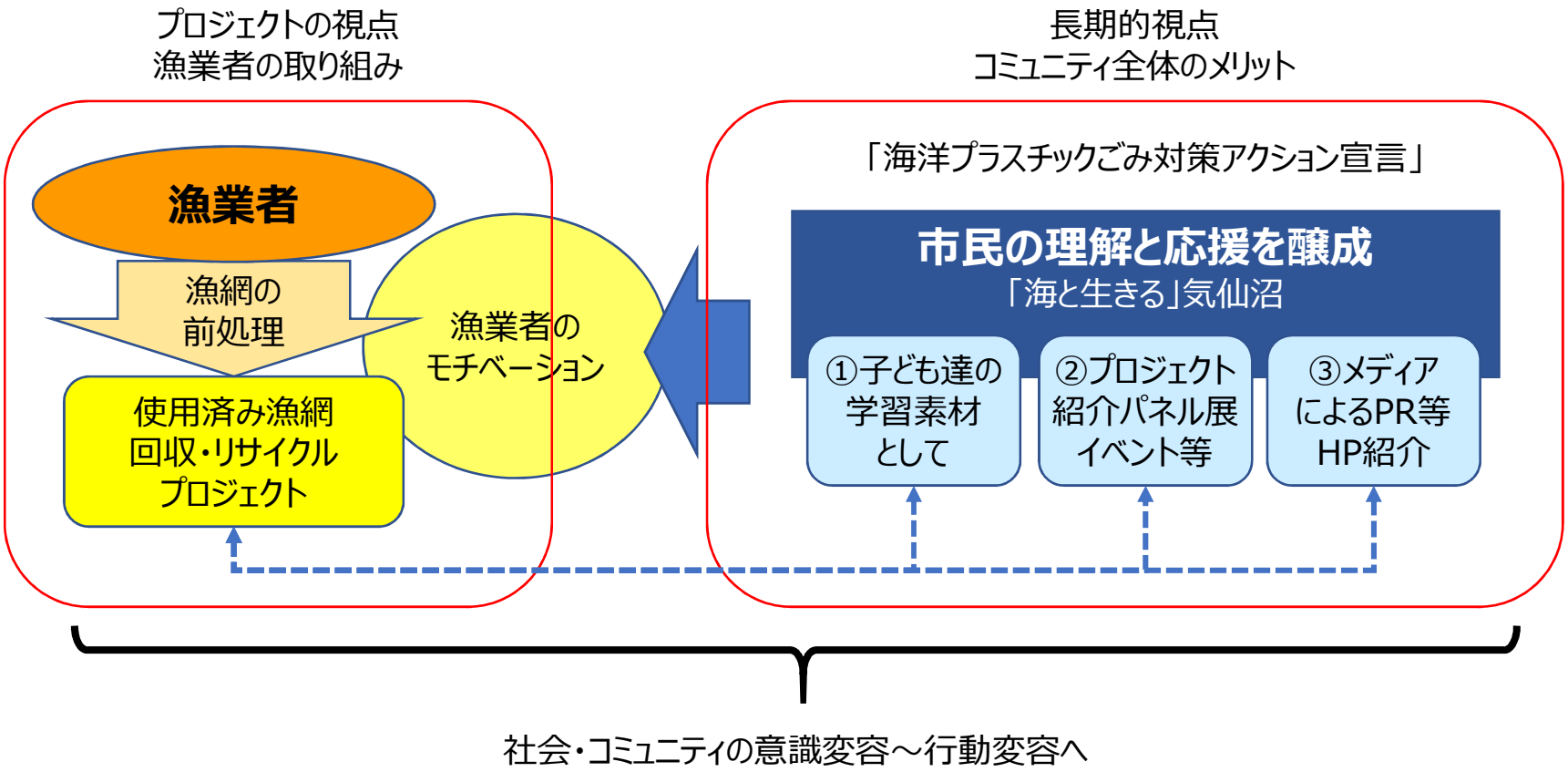
はじめに

今回のご相談の背景：

- 現在、気仙沼市産業部水産課さんと、WWFジャパンでは、使用済みの漁網を回収・リサイクルし、漁業者の方々の漁具管理を通じて、漁業由来の海洋プラスチックごみの発生を抑制するプロジェクトを進めさせていただいております。
- プロジェクトはまだ端緒についたばかりで、回収した漁網がリサイクルできるかどうかのテストがようやく終わり、これから製品化のテストが始まり、本格的な回収は年明け2月頃からになる予定です。
- そのような段階ではありますが、昨今当プロジェクトを進める上で、重要なカギとなるのが、漁業者の方々のモチベーションであることを感じております。
- 漁業者の方々にとって、漁網などは大切な仕事の道具であり、また財産でもあります。一方で、道具としては耐用年数もあり、はたまた昨今の海水温度の上昇などの影響で漁獲できる魚種が変わるとそれまでの漁網が使えなくなるような事態も起こりうるようです。
  本来このように使用済みとなった漁網は産業廃棄物として処分しなければならないのですが、処分の費用もかかり、また産廃として焼却されてしまうとCO_2も発生してしまいます。
- 捨ててしまえば「ごみ」となってしまうものも、リサイクルすれば「資源」として文房具などに生まれ変わるのがプラスチックです。しかし回収の前処理として、漁網を分別したり、洗浄したりと、漁業者の方々にも負担をお願いしないとならないのが実情です。この前処理に、ご対応いただける漁業者もいらっしゃいますが、余計な手間と感じてしまう方もいるかもしれません。
- そこで、水産業が基幹産業であり、且つ「海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」を出され、「海と生きる」気仙沼市として、この漁網を「資源」として生まれ変わらせる取り組みについて、市民の皆さまからの応援により、漁業者の方々のモチベーションを支えていただける方法をご相談させていただきたいと考えております。

狙い

- 今回のプロジェクトを、漁業者中心の取り組みから、気仙沼市民がこのプロジェクトを理解していただき、プロジェクトに参加する漁業者を応援する取り組みとしていただくことで、漁業者の方々のモチベーションを維持・向上することを狙いたいと考えております。
- 更には、海洋プラスチックごみ対策として、コミュニティ全体の行動変容へのきっかけになればと考えております。



今回のご相談について

- 市民の皆さまに当プロジェクトをご紹介し、プロジェクトに携わる漁業者の方々を応援していただく為に、主に以下の3つの活動を想定しております

市民の理解と応援を醸成
「海と生きる」気仙沼

①当プロジェクトを海洋教育の材料などとして子ども達に伝える・参加してもらうなど

②気仙沼市民に向け、パネル展や講演・イベントでプロジェクトの紹介を行う

③メディア（全国・地域）を活用したPR。WWFジャパンのHPでも紹介

みなとラボさんのご協力

WWFジャパン

- これらの活動を行う資金として、2021年度のWWFジャパンの広報予算（6月迄）、および日本財団様助成金の活用（今後申請予定）を想定しております。
- ②③の活動について、WWFジャパン予算適用を検討しています。
- 予算期限の点から、②と③について、従来より気仙沼市でも海洋プラスチックごみ対策の活動が行われてきた5月30日（予定）に実施することを想定し、スケジュールを組みたてていければと考えております。

プロジェクトのタイムテーブル

- 年単位でのプロジェクトタイムテーブルはお見せるとしても、キャンペーンの準備、仕込み、説明には大まかすぎて、今回のキャンペーン準備やコンテンツ制作、学校での展開の時系列の詰めができないように思えます。

		2021年	2022年														
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			3学期			1学期				夏休み	2学期				3学期		
プロジェクト項目	プロジェクト展開	素材テスト	製品化テスト														
	漁期	→	→	サケ刺網漁、タラ刺網													
	回収			回収開始	→	→	→	検証	回収	→	→	→	→	→	→	→	→
	リサイクル～製品製造					ペレット製造	→	→	製品	→	→	ペレット製造	→	→	製品	→	→
②パネル展・イベント	プロジェクトのパネル展			準備	→	→	●5/30ごみ０の日										
	写真撮影			※刺網の回収の模様やリサイクル工場での製造現場などの写真を準備しておきます													
	イベント（スピーチ等？						●プロジェクト参加漁協代表の方のお話										
③PR	メディアアプローチ						●PRリリース										
	取材誘致					仕込み	●掲載										
①教育		事前打ち合わせ		コンテンツ作成学校と調整		第１段階			第２段階								

学校での取り組み内容案

海洋プラごみのなかでも、気仙沼にも大きく関わりのある漁業由来のものについての課題と現状を知り、漁師さんの苦労を共有し、自分ごととして取り組む

1．海洋プラごみ問題についての学習

- 概要について
- 気仙沼市の取り組み（海洋プラスチックごみ対策アクションプラン）

2．漁業由来の海洋プラごみ問題についての学習

- 漁師さんの話を聞く（実際の回収・洗浄作業などを見れるとよい）
- 漁業由来の問題を自分ごととして考える

3．漁師さんの課題を一緒に考える（苦労を知る）

- 持続可能な漁業を考える
- 課題そのものの周知（漁師さんの魅力、課題解決の必要性）
- 課題解決のアイデア

4．リサイクルについての学習

- リサイクル過程の学習、3Rなど
- リサイクルのあり方について考える
- 漁網のリサイクル・アイデアを考える

魅力発信
漁師さんを後押し

▼上記は案なので、学校と相談しながら実施できることを決めたい

▼2021年度中にある程度学習を進め、2022年5月末に1段階目の成果を出す

パネル展について

展示するパネル内容は、ご協力いただく皆さんが行う、
合同プロジェクトの展示という想定です。

（パネル展の素材は、WWFから、カメラマンを派遣撮影し、写真をパネル化します）

@気仙沼市施設　Pier７体育館
2022/5/30からの1週間、一般公開　想定

・気仙沼市産業部水産課さん
漁業由来の海洋プラスチックごみの発生を抑制する
プロジェクトを漁業者の方々、WWFと進めている様子を紹介

・気仙沼市教育委員会さん
その中で、海洋教育として、子ども達に漁業者の取り組みを伝える・
子ども達に参加してもらう学習実施の様子を紹介

・気仙沼市児童
「リサイクルされた漁網がこんな風に使われたらいいな」のアイディアお絵描きの展示

・WWFが協働するリサイクラー
漁網が工場でペレット化され、リサイクルされ、企業で商品開発に検討されるリサイクルプロセスを紹介

イベントPRについて

2022年05/30のゴミゼロの日に、パネル展を行う施設で、
プロジェクトにご協力いただいている関係各社方（気仙沼市教育委員会、水産課、漁業者、児童）にお集まりいただき、プロジェクトに参加された感想や気づきを、発表共有いただくイベント。

発信したいメディアに、WWF＋気仙沼市記者クラブからお声がけし、展示の様子、発表共有、取り組みを記事化。海をバックに関係各社で記念撮影。

イベントを露出したいメディアリスト

- 気仙沼地元のメディア（三陸新報、河北新報）
- メジャー紙（朝日新聞SDG、読売、NHK）
- メジャー紙こども新聞（読売中高生新聞、朝日中高生新聞、朝日小学生新聞、読売小学生新聞）
- 水産系メディア（水産経済新聞、みなと新聞、水産タイムズ）
- 環境系オンラインメディア（オルタナ、idea for good、環Elemist）
- ネクストターゲット地域のメディア（地域未定）

サイトについて

2022年05/30のゴミゼロの日に、ローンチ。

プロジェクトの情報をオンライン上で集約し、先行事例として、他自治体などに参考にしていただけるように、プロジェクトの過程や、各関係者がどのようにプロジェクトに関わっているかを公開

サイトコンテンツ

- プロジェクト全体像
  - 現在活動中の地域リスト
- リサイクルの過程紹介を気仙沼の写真を使い紹介
- 海洋保全教育の様子紹介、教材チラ見せ
- 協力関係各社の短いインタビューコンテンツ
  - 漁業者、教育委員会、水産課・生活課、小学校先生、児童など。
- 他自治体担当者様用問い合わせ窓口
  - プロジェクトのに興味のある自治体からの問い合わせを喚起
- 活動ニュース（更新）
  - イベントの様子、子供のアイディアを企業に提出！、新しい自治体が加入！などの進捗